

寿 企 画 号
令和 3 年 2 月 8 日

子どもたちに核のゴミない寿都を！町民の会 様

寿都町長 片 岡 春 雄

要望書への回答について

令和3年1月25日付で貴会から拝受しました要望書につきまして、下記のとおり回答申し上げます。

記

これまで、少子高齢化、人口減少、財政危機と様々な課題を抱える中、風力発電やふるさと納税など、町民が健康で文化的な生活を送れるよう自主財源の確保に努め、ニセコアンテナショップ、農業振興ハウス経営なども、めまぐるしく変化する社会情勢に応じた事業展開として、町議会とも協議をしながら進めてまいりました。

「まちづくり懇談会」につきましては、参加者が減少していることなどを踏まえ、平成21年度にそのあり方について検討し、毎年開催の取りやめを決定し、各町内会へ周知させていただいております。その後、平成27年度に7地区の会館で開催いたしましたが、残念ながら参加者が少数に留まっているのが現状です。

しかしながら、広報広聴活動や情報公開、また町民の皆様から直に意見を聴取する機会は大変重要であると認識しており、具体的な事業説明等についての要望があった場合や、社会情勢等により町民の生活に大きく影響を及ぼす案件があると判断した場合など、適宜、住民説明会等を開催してきた他、毎年、広報5月号に折り込みしております「町民の声」、各町内会総会への出席、「町内会要望」など、広くご意見をいただく機会を設け、町政の反映に努めてまいりました。今後も、社会情勢や町民の皆様の要望を踏まえ、まちづくり懇談会の開催や、広報広聴活動等の展開について検討してまいります。

「対話の場」につきましても、重要な広報広聴活動の一つに位置づけられるものと捉えており、国・町や NUMO からの一方的な説明の場ではなく、高レベル放射性廃棄物の地層処分事業の仕組みや安全確保の考え方、文献調査の進捗状況、さらには町の将来ビジョンや持続的発展に資する取組などを情報共有し、意見交換を行い、内容については広く町民に知っていただけるよう方法について検討しております。

今回、頂戴しました要望は、貴重な意見として拝聴し、まちづくりを進めていく中で参考にさせていただきますと思います。

以 上